



平成 22 年 10 月 15 日

各 位

会 社 名 大 幸 薬 品 株 式 会 社  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 柴 田 高  
(コード番号：4574 東証第一部)  
問 合 せ 先 常 務 取 締 役 財 務 本 部 長 吉 川 友 貞  
(TEL. 06-6382-1135)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 5 月 14 日に公表した業績予想を下記の通り修正致しましたのでお知らせ致します。

記

(単位：百万円)

平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり四半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	2,815	143	146	120	9.46
今回発表予想 (B)	2,172	△355	△335	△721	△56.38
増減額 (B - A)	△643	△498	△482	△842	
増減率 (%)	△22.8	—	—	—	
(ご参考)前期第 2 四半期実績	5,060	1,808	1,815	1,182	92.72

修正の理由

(医薬品事業)

当第 2 四半期連結累計期間（以下、上期）の医薬品事業につきましては、中国市場における現地卸売事業者の再編による流通在庫の滞留により、販売代理店側が一時的に仕入計画を見直したことや、同国での販売に向けたライセンス更新後の当社の出荷再開に際し、当初上期に見込んだ現地売上高が第 3 四半期計上となったこと等から、海外市場向け売上高は当初計画を下回って推移致しました。国内市場向け売上高は計画通りに推移したものの、海外市場向けの未達により、医薬品事業全体の売上高も予想を若干下回る結果となりました。

(感染管理事業)

急速な新型インフルエンザの収束による異例な返品発生と製品需要の縮小により、第 1 四半期は低調な業績推移を見込んだ一方、第 2 四半期は衛生対策意識が秋口に向けて徐々に高まり、当社製品需要も再び増加するものと想定しておりました。しかしながら、小売店側への店頭販促策の提案等に鋭意努めたものの、卸売事業者や小売店等が前期より有する流通在庫の減少が想定した程進まず、第 2 四半期における当社の出荷も依然低調な水準に留まりました。返品縮小により、第 2 四半期の売上高はプラスに転じたものの、第 1 四半期のマイナス売上高を吸収するには至らず、上期の売上高は予想を大幅に下回る結果となりました。

(損益面)

売上総利益の大幅な減少に加え、販売費及び一般管理費が費用構造上、売上高の減少に必ずしも比例せず限定的な減少に留まり、また、投資有価証券評価損及び固定資産売却損の特別損失計上等もあったことから、上期の損益は予想を大幅に超える損失計上となりました。

なお、今回発表予想の売上高におけるセグメント別内訳は以下の通りであります。

(単位：百万円)

セグメント別連結売上高(平成23年3月期第2四半期連結累計期間)

	医薬品事業	感染管理事業	その他事業	売上高合計
前回発表予想 (A)	2,269	519	25	2,815
今回発表予想 (B)	2,233	△75	14	2,172
増減額 (B - A)	△36	△595	△11	△643
増減率 (%)	△1.6	—	△44.8	△22.8
(ご参考) 前期第2 四半期実績	2,529	2,510	21	5,060

(通期業績予想)

通期の業績予想につきましても、現在慎重に見直しを行っており、決定次第速やかな修正を行う予定であります。特に感染管理事業につきましては、当初の想定に比し、現時点では当社製品の流通市場での需要低迷に加えて、荷動きのタイミング等に不透明感が強いことから、通期の連結業績も当初の予想に比し、著しく悪化する可能性があります。

なお、上記の予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上